

記 録

文書番号	SCJ第24期01062924600200014
委員会等名	日本学術会議 若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会
標題	若手研究者ネットワークアニュアルレポート 2018
作成日	令和元年（2019年）6月29日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

若手科学者ネットワーク アニュアルレポート 2018

2019 年 6 月

日本学術会議 若手アカデミー

若手科学者ネットワーク分科会

目次

はじめに	2
若手科学者ネットワーク参加団体活動報告（五十音順）：29 件	
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会（Q・NET）	3
化学とマイクロ・ナノシステム学会（CHEMINAS）若手の会	4
環境資源工学会・若手の会	5
気象気候若手研究者交流会（Young Meteorologist Overnight session: YMO）	6
血管生物医学会 若手研究会	8
細胞生物若手の会	9
資源地質学会若手研究委員会	10
次世代医工学研究会	11
生命情報科学若手の会	12
石油学会ジュニア・ソサイアティ（JPIJS）	13
全国英語教育学会 学生支援部	14
炭素材料学会 次世代の会	15
地理情報システム学会 若手分科会	16
糖鎖インフォマティクス若手の会	17
日本衛生学会若手研究者の会	18
日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会	19
日本家禽学会若手幹事会	21
日本基礎心理学会若手研究者特別委員会.....	22
日本教育経営学会 若手研究者のためのラウンドテーブル	23
日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会.....	24
日本産業技術教育学会 若手の会	26
日本蚕糸学会 若手の会	28
日本助産学会 若手研究者活躍推進委員会	29
日本睡眠学会 若手の会	30
日本体育学会 若手の会	32
農村計画学会若手ネットワーク活動	34
微生物若手の会	35
ビーム物理研究会・若手の会	36
Japan-YWP	38
おわりに	39

はじめに

日頃より若手科学者ネットワークの活動にご協力いただきありがとうございます。おかげさまで今年も「アニュアルレポート 2018」を発行することができました。原稿を執筆いただいた各学協会の若手の会の皆様に厚く御礼申し上げます。異分野での若手の会の活動にぜひ刺激を受けていただければと思っています。

若手アカデミーでは、2018 年度に「第 3 回若手科学者サミット」を開催いたしました。サミットでは、各若手の会の活動報告を含めたポスターセッションの他、本ネットワークにご登録いただいている団体からの推薦による研究発表があり、1 件の「若手アカデミー賞」を表彰させていただきました。さらには、「よい研究とは」というテーマでのパネルディスカッションを行いました。今後も、こうした情報共有の場を継続的に提供し、研究分野を超えた、さらに充実した交流ができればと考えています。

若手科学者ネットワークの登録団体はますます増加し、分野を問わず若手の活動を支援すべきという気運が高まっています。今後も、本ネットワークを通じた情報共有と問題発信を積極的に行っていきたいと考えています。ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

2019 年 6 月

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
委員長 酒折 文武

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 (Q・NET)

<http://www3.scej.org/kyushu/q-net/>

【構成メンバー、人数】化学工学会九州支部に所属する若手研究者・技術者、47 名（2018 年度）

【代表者】森貞真太郎・佐賀大学理工学部・准教授

【学術分野】「理学・工学」

【関連のある学協会名】化学工学会（九州支部）

【設立の経緯】

1980~90 年代において、化学工学が抱える諸問題、特に「なぜ化学工学が民間企業に人気のない学問になってしまったのか?」、「現場の化学工学がどのようなものを学生が知らない」といった点を憂慮した若手教員らが発起人となり、それらの諸課題を解決するための新組織として「化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 (Q・NET)」を発足させた。その後、1995 年に九州支部の正式な団体として承認された。

【ミッション】

九州支部内の学生の組織である「若手の会」を側面から支えるとともに、本会 (Q・NET) 会員が所属する団体間で技術や知識を共有し、人的交流を含めた協力体制を築く。また、活動を通じて化学工学の有用性を社会に示し、会員の増強にも努める。さらに、共同研究へ発展性のある内容に関しては、その橋渡しをし、以て、化学工学の発展に貢献することを目的とする。

【活動内容】

- ・ 年 1 ～ 2 回の運営会議の開催
- ・ 化学関連支部合同九州大会における化学工学分野のポスター賞の審査とりまとめ
- ・ 化学工学会の全国大会（秋季大会および年会）における若手シンポジウムの企画・運営
- ・ 九州地区若手ケミカルエンジニア討論会を運営する学生組織「若手の会」のサポート
- ・ 九州地区大学一高専若手研究者研究・教育セミナーの開催

【課題】

- ・ 地方大学の若手教員の著しい減少に伴う「Q・NET」会員の減少
- ・ 企業会員の増強

化学とマイクロ・ナノシステム学会（CHEMINAS）若手の会

<http://cheminas.chips.jp/>

【構成メンバー、人数】510名（2018年度学会総会員数）

【代表者】横川隆司・京都大学大学院・准教授（Cheminas 若手担当理事）、安井隆雄・名古屋大学大学院・准教授（平成30年度 Cheminas 若手企画実行委員長）

【学術分野】「生命科学」「理学・工学」「複合（医用生体工学・生体材料科学）」

【関連のある学協会名】化学とマイクロ・ナノシステム学会、電気学会センサ・マイクロマシン部門、日本機械学会マイクロ・ナノ工学部門、日本化学会、電気化学会

【設立の経緯】

2012年若手企画実施時に設立。

【ミッション】

年1回、秋の研究会に併設の若手企画の立案と実施。

【活動内容】

博士課程の学生会員と協力して独自に若手企画を立案し、秋の研究会初日の午前中を利用して通常の研究会プログラムから独立して実施している。具体的な実施内容は、他分野から招聘した若手研究者による招待講演や、独創的かつチャレンジングな研究テーマを立案するコンテストなどである。今年度は、「第二・三世代で考える新学術領域研究 ～マイクロケモエレクトロニクスに続け～」と題し、新学術に関わる研究者の招待講演を実施し、若手世代の意識向上を図った。

【課題】

比較的歴史が浅く、かつ融合的な分野であるため、若手研究者を輩出する研究室の広がり十分でなく、会の運営が一部の研究室に集中する傾向にある。また、博士後期課程の学生も含めて活動しているため、学生にとって大きな負担となることがある。若手研究者同士の横の繋がりを強めて、活動を活性化する必要がある。

環境資源工学会・若手の会

【構成メンバー、人数】45歳以下の学会員が対象、約55名（2018年度）

【代表者】鈴木祐麻・山口大学・准教授

【学術分野】「理学・工学」

【関連のある学協会名】（一社）資源・素材学会、（一社）廃棄物資源循環学会、（公社）化学工学会、（公社）日本金属学会など

【ミッション】

産官学の若手同士が分野や日常業務を超えた交流を深め、次世代を担う俯瞰的視野を持った研究者や技術者として互いに成長できる場を設けることが本会設立の趣旨である。若手研究者、若手技術者の立場から、環境資源工学会理事会に向けて様々な意見や要望を定期的に発信できる組織に発展させることが目標である。

【活動内容】

- ①学術講演会時に「若手の会・ランチョンミーティング」と称する講演会を実施する。
- ②ランチョンミーティングでの活動内容を報告記として学会誌に掲載する。
- ③ランチョンミーティングの前日に、「研究室見学会」および「若手の会交流会」を実施する。
- ④若手の会に寄せられた学会に対する意見や要望を取りまとめ、学会理事会に提言する。

【課題】

対象世代の関連分野の研究者や技術者を、若手の会メンバーとして定期的に確保すること。

気象気候若手研究者交流会 (Young Meteorologist Overnight session: YMO)

<https://sites.google.com/site/ymo201803/>

【構成メンバー、人数】気象や気候を研究する博士課程の学生から若手研究（20～40 代）28 名
（2018 年度）

【代表者】2018 年度幹事

釜江 陽一・筑波大学・助教

栃本 英伍・東京大学 大気海洋研究所・研究員

西川 はつみ・北海道大学 低温科学研究所・研究員

宇野 史睦・産業技術総合研究所・産総研特別研究員

山崎 哲・海洋研究開発機構・研究員

川瀬 宏明・気象庁気象研究所・主任研究官

木下 武也・海洋研究開発機構・研究員

（会の代表は設置しておりません）

【学術分野】「理学・工学」および「人文・社会科学」

【関連のある学協会名】日本気象学会

【設立の経緯】

他の研究者（特に同世代）との交流、分野の枠を超えた共同研究の萌芽の場の創設、主体性をもった人々による集団の形成を目的に 2010 年 9 月に発足。

【ミッション】

気象・気候学および関連した幅広い分野で研究・教育・開発に取り組む若手が、自己紹介やグループワークなどを通して、それぞれのバックグラウンドを共有し、新たなコラボレーションを模索する。

【活動内容】

① 第 4 回気象気候若手研究者交流会に関する報告記事を作成

釜江陽一、栃本英伍、西川はつみ、宇野史睦、山崎哲、川瀬宏明、辻野智紀、神山翼、大竹潤、山下陽介、道端拓朗、川添祥、神澤望、築地原匠、木下武也（2018）、

第 4 回気象気候若手研究者交流会開催報告、天気、65、9、643-648

(https://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2018/2018_09_0029.pdf)

② 気象気候若手研究者交流会のホームページを作成 (<https://sites.google.com/site/ymo201803/>)

③ 第3回若手サミットでの活動紹介

山崎哲、木下武也 (2018)、第3回若手科学者サミット報告、天気、65、9、649-651

(https://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2018/2018_09_0035.pdf)

④ メソ気象セミナー (<http://meso.sakura.ne.jp/mesosemi/>)

期間：2018年6月15～16日

開催場所：千葉県柏市 東京大学大気海洋研究所柏キャンパス

実行委員：鶴沼昂、渡邊俊一、末木健太、吉住蓉子、春日悟、下瀬健一、津口裕茂、加藤亮平、栃本英伍、横田祥

⑤ 台風セミナー (http://www.itonwp.sci.u-ryukyu.ac.jp/Typhoon_Research_Group/)

期間：2018年10月26～27日

開催場所：東京都千代田区 JAMSTEC 東京事務所

代表・事務局：伊藤耕介・琉球大学・准教授

中野満寿男・海洋研究開発機構・技術研究員

2018年度幹事：中野満寿男・海洋研究開発機構・技術研究員

(注)「メソ気象セミナー」および「台風セミナー」は YMO から発展した若手研究者主体の取り組みである。

【課題】

本交流会は自発的な発案を原動力として運営されており、次回の幹事を指名して、いわゆる定期的な引継ぎを行って代替わりをすることは避けている。これにより、若手交流会の企画・運営は常に不安定である。(一方で、それゆえにそのときの需要に合わせた柔軟な企画が可能であることが、本交流会の特色であり意義でもある。)

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

引き続き、何某かの形で交流する機会が生まれたらと考えている。

血管生物医学会 若手研究会

<http://jvbmo.umin.jp/sg.html> jvbmwakate@gmail.com

【構成メンバー、人数】主に日本血管生物医学会に所属する若手研究者 約 50 名

【代表者】村松 昌、熊本大学 生命資源研究・支援センター、助教

【学術分野】生命科学

【関連のある学協会名】日本血管生物医学会

【設立の経緯】

近年の生命科学研究では様々な解析を高度な知識や経験をもって行う必要があり、全てを個々の研究室で行うことが困難になっている。そのため世界的な流れとして、各分野のスペシャリストが連携するチームを組むことで高レベルな研究が進められている。この状況を受け、若手の連携を高めることで世界最高水準の研究を展開したいという機運が高まり、日本血管生物医学会の若手研究者を中心に 2014 年に本会が設立された。

【ミッション】

医学、生物学、工学分野など様々な分野で血管に関連する研究を行っている若手研究者同士が一堂に会し、密なディスカッションを通して研究レベルの向上や研究進展、更には有機的な共同研究の促進を促し、日本の研究力のボトムアップを図る。

【活動内容】

1. 年に一度、研究会を開催して各自の最新の研究成果について発表し、他の研究者からの真摯な意見に基づいて議論する。
2. 血管生物医学に携わる若手研究者が交流する場を設けて連携を深める。
3. 日本血管生物医学会に対する若手からの意見や要望を取りまとめ、理事会に提言する。

【課題】

本会では、血管に関連する研究を行っている全ての若手研究者を分野に拘らずに対象としている。しかも血管は多くの生物に普遍的な組織であり、対象とした研究は他分野にて認められるが、本会への参加者は多くはない。今後は血管研究の裾野を広げるためにも、工学、薬学、臨床医学など、より一層多岐に渡る分野への周知および連携を通じて、本研究会の活性化を図っていききたい。また、大学院生を含む若手血管研究者を対象に口頭発表の機会を設けるなど、若手育成にも貢献していききたい。

細胞生物若手の会

<https://saibouwakate.wpblog.jp>; saibouwakate@gmail.com

【構成メンバー、人数】153名（メーリングリスト登録者）、5名（役員）（2018年度）

【代表者】桑原 誠・東京大学 大学院理学系研究科・博士課程1年

【学術分野】「生命科学」

【関連のある学協会名】一般社団法人 日本細胞生物学会

【設立の経緯】

細胞生物若手の会は、日本細胞生物学会に所属する学生及び若手研究者を中心として、2014年9月に設立されました。

【ミッション】

日本細胞生物学会は会員数の大きくない学会ですが、素晴らしい研究を世界に発信している研究者が多く在籍し、そのサイエンスのレベルは大変高いものです。また、細胞生物学は、分子生物学や生化学などと共に、生物学の根幹を成すものです。

しかしながら、近年、学生の参加者が減少傾向にあり、寂しさと危機感が漂っています。このような状況を踏まえ、細胞生物若手の会は細胞生物学分野における若手研究者の交流を推進するとともに、次世代を担う研究者の養成を促し、細胞生物学の発展に寄与することを目的としています。

【活動内容】

年に1度、日本細胞生物学会年会と時期をあわせて、若手の会交流会を行っています。この交流会では、参加者全員に発表の機会を設けることで、若手研究者同士の活発な議論や情報交換が行われています。

【課題】

これまで、役員が年度ごとに交代するため、継続的な運営により会を発展させることが難しいという問題がありました。そこで昨年から、継続的な運営体制を整えることに取り組み、年度間でのより円滑な引き継ぎ体制を強化しています。昨年は日本発生生物学会の若手研究者と、今年は日本蛋白質科学会の若手研究者とそれぞれコラボレーションした「合同交流会」を企画しており、今後も関連他分野に活発な「若手の会」文化を波及していきたいと考えています。

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

現在のところ、特にありません。

資源地質学会若手研究委員会

<https://www.resource-geology.jp/info/資源地質学会若手研究委員会の設立のご報告と会/>

【構成メンバー、人数】若手研究者及び会社員、127 名（2018 年度）

【代表者】田中崇裕・JOGMEC・専門調査員

【学術分野】「理学・工学」

【関連のある学協会名】資源地質学会

【設立の経緯】

資源地質学会内における若手研究者・会社員間の交流を促進するとともに、旅費支援等を通じて学会や巡検への参加機会を増やすことを主たる目的として設立。

【ミッション】

資源地質学会年会や連合大会等において会合・懇親会を設け、学会活動を盛り上げていくための対策案を議論/提案する。また、若手研究者・会社員が積極的に学会活動・懇親会・巡検などを企画・参加できるように活動を行う。

【活動内容】

資源地質学会が開催する巡検とは別に若手研究者・会社員を中心する巡検や懇親会を実施。

【課題】

本委員会の活動により、若手会員の学会年会への参加者数の増加など、学会活動全体の活発化。

次世代医工学研究会

<https://www.facebook.com/nextmedeng/>

【構成メンバー、人数】生体医工学に関連する研究に携わる若手研究者、約 120 名（2018 年度）

【代表者】樋口ゆり子・京都大学大学院薬学研究科・講師

【学術分野】「生命科学」「理学・工学」

【関連のある学協会名】日本バイオマテリアル学会、日本 DDS 学会、高分子学会

【ミッション】

医学・工学・薬学などの学際融合領域である生体医工学研究に携わる若手研究者がお互いに情報交換することにより、共同研究を育める土壌を提供する。近い世代の研究者が集まり、若手研究者を取り巻く研究環境や関係する研究分野の将来像について意見交換をすることで研究分野の発展を目指す。

【活動内容】

年に 2 回の宿泊形式またはシンポジウム形式の研究会を開催する。2-3 名の特別講師を招いた特別講演の他、研究会会員による研究紹介を行い、研究交流を行っている。宿泊形式の場合は、テーマ（研究生活や研究費獲得など）を決めてグループワークを行っている。

【課題】

新しい会員の勧誘

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

学会でのシンポジウム企画、共同研究、フィンランドとの JSPS 二国間交流事業への採択

生命情報科学若手の会

<http://bioinfowakate.org> bioinfowakate_staff@googlegroups.com

【構成メンバー、人数】運営スタッフ 14 名、

【代表者】平岡聡史・海洋研究開発機構(JAMSTEC) 生命理工学センター

【学術分野】生命科学

【関連のある学協会名】なし

【設立の経緯】

生命情報科学若手の会は、国内及び国際のゲノム科学・システム生物学の若手研究会参加者及びスタッフが中心となり、2009 年 2 月に設立された。

【ミッション】

現在に至るまで、およそ年 1 回の頻度で研究会を開催しており、メーリングリストや関連研究会など他の機会も利用しながら、幅広い生命情報科学研究において情報学的、計算生物学的視点から新たな生命現象の見方を探求する若手研究者の交流を推進することを目指して活動している。

【活動内容】

2018 年度、微生物という対象生物を軸とした「日本ゲノム微生物学会若手の会」、バイオインフォマティクスというアプローチを軸とした「生命情報科学若手の会」、そして光合成という現象を軸とした「日本光合成学会若手の会」が学際的な融合を目的に、生命科学系フロンティアミーティング 2018（生命情報科学若手の会 第 10 回研究会）を合同で開催した。参加者の 6 割弱が学生であり、分野は免疫学、再生医療と医学系から、微生物生態学、光合成生物学といった基礎生物学、オミックスゲノム科学、情報科学まで多岐に渡った。メーリングリストへの登録や参加者間の自発的な SNS アカウントの交換を通じ、会の終了後も参加者間でゆるくつながりを保てると期待される。以上より、今後にも必要に応じて情報交換・協力しあえるような、バイオインフォマティクスを支える人材層形成の場として本研究会が機能していると考えている。

【課題】

今以上にバイオとインフォの垣根を超えて、幅広い若手の交流を生み出せるように、今後も引き続き精力的に運営をしていく予定である。

石油学会ジュニア・ソサイアティ（JPIJS）

【構成メンバー、人数】2018年12月時点で幹事36名。石油学会に所属する概ね40歳以下の若手研究者・技術者が対象で、産官学ならびに研究分野は問わない。

【代表者の名前、所属機関、職位、連絡先】

細川三郎、京都大学 触媒・電池元素戦略研究拠点、特定准教授

e-mail: hosokawa@scl.kyoto-u.ac.jp

【学術分野】理学・工学

【関連のある学協会名】触媒学会、化学工学会、日本エネルギー学会など

【設立の経緯】

石油学会の若手会員の増強、若手研究者の活性化を目的とし、JPIJSの設立は平成3年に設立された。

【ミッション】

産官学における若手研究者間の人的交流、学術的・技術的な意見交換を通して連携の深化を図る。また、学会と企業研究者および学生との間の橋渡しを行うことで、幅広く学会を周知するとともに、大会の活性化に繋げる。

【活動内容】

主な活動は、大会に合わせて、若手研究者のためのポスターセッション、英語での口頭セッションを開催している。また、若手主体の講演会、シンポジウム、企業見学会、宿泊型意見交換会などを行っている。加えて、石油学会誌「ペトロテック」に毎月「JPIJS だより」を寄稿し、活動内容の報告を行っている。

【課題】

・定期的な若手研究者メンバーの確保および企業研究者の会への参加の推進

全国英語教育学会 学生支援部

jaselegakuseishienbu@gmail.com

【構成メンバー、人数】4名（2018年度）

【代表者】森 好紳（白鷗大学 教育学部 准教授）

【学術分野】人文・社会科学

【関連のある学協会名】全国英語教育学会（Japan Society of English Language Education）

【設立の経緯】

2013年度より全国英語教育学会事務局の一部会として、学生支援部が発足。以降現在まで活動を続けている。

【ミッション】

学会学生会員（大学生・大学院生）の年次大会参加や、教育・研究活動を支援することを目的としている。

【活動内容】

- 年次大会で学生会員向けのフォーラムを開催し、大学院生・学部生の大学間交流を促すとともに、教育実践や研究活動を支援する講座を設けている。
- 年次大会に参加した学生を対象として、学会やフォーラムに対する意見や要望を調査するアンケートを実施し、その結果を学会理事会に報告している。
- 2016年度より学生会員の年次大会参加にかかる費用を学会が一部負担する支援制度を施行し、参加者レポートを学会ウェブサイト上 (<http://www.jasele.jp/>) に公開している。

【課題】

- 上記学生会員向けのフォーラムには、毎回一定数の学生会員が参加者しているものの、年度によってばらつきがあるため、安定して多くの学生に参加していただくことが今後の課題である。特に、参加者の大部分が大学院生であり、学部生の参加が少ないため、学部生から参加しやすいように周知や企画運営をしていく必要がある。
- また、フォーラムに充てられる時間が限られている。フォーラム内容の充実や、学生間交流の深化のためには、枠の拡張も望ましい。
- さらに、学生会員の年次研究大会にかかる費用の支援に関しても、現状では人数、金額ともに限られているため、制度の拡大を検討する。

炭素材料学会 次世代の会

<http://www.tanso.org/contents/society/next-g.html>

irisawa.toshihira@material.nagoya-u.ac.jp

【構成メンバー、人数】炭素材料学会の45歳以下の会員・約400名（2019年度）

【代表者】入澤寿平・名古屋大学・助教

【学術分野】「理学・工学」

【関連のある学協会名】炭素材料学会

【設立の経緯】

若手の前身組織（セミナー実行委員会）を発展させる形で設立

【ミッション】

次世代を担う、炭素材料に関わる若手研究者・技術者の連携を深め、関連分野の発展に貢献する

【活動内容】

・論文出版支援

論文出版にかかる費用の補助として、1件につき最大10万円を補助

・常任幹事会（4月）

幹事が集まり、夏季セミナーに関する詳細な打ち合わせと、次世代の会の一般的事項に関する打ち合わせ

・夏季セミナー（9月，1泊2日）

次世代の会が主催する若手，学生向けのセミナー。会期中に次世代の会幹事会を開催

・中国・韓国炭素学会との交流

若手研究者2名ずつを中国炭素学会，韓国炭素学会に派遣，講演を行う。また中国・韓国から若手研究者2名ずつを学会年会に招待し，交流を図る。

・年会インターナショナルセッション関連（12月）

炭素材料学会の年会において、海外からの招待講師の先生方と交流会を開催

・定例会@年会（12月）

若手会員全員向けの定例会を開催。講演会も実施。

地理情報システム学会 若手分科会

wakate@gisa-japan.org (加入者以外の送信は学会事務局の承認が必要)

【構成メンバー、人数】若手大学教員・実務家および学生、32 名（2018 年度）

【代表者】相 尚寿・東京大学 空間情報科学研究センター・助教

【学術分野】「複合（人文・社会科学および理学・工学）」

【関連のある学協会名】地理情報システム学会

【設立の経緯】

2015 年 10 月、地理情報システム学会若手会員分科会担当理事の呼びかけにより、若手会員から学会への意見や要望を聞く場としてキックオフ集会を開催。2016 年度より学会に設置された分科会として活動を開始。2016 年 10 月、学術研究発表会において若手会員が発表するセッションを設置。同時に現代表の相が代表職を引き継ぎ、若手会員のみによる分科会運営を開始。発表会中の特別セッションやその他の研究会を企画しながら現在に至る。

【ミッション】

若手大学教員に留まらず、現役学生や若手実務家も含めて、学会が研究発表および交流の場として機能するような仕組みの検討や企画の立案を行い、若手同士の交流、若手学会会員の獲得を目指すこと。

【活動内容】

2018 年度より「学生フリーテーマ発表会」を企画している。地理情報システム(GIS)の特性上、その専門分野や研究対象は非常に幅広いため、地理情報システム学会では通常研究テーマごとにセッションが分けられており、専門性の高い議論や意見交換が行われている。一方、分科会参加者の中から、そのために他の研究分野の発表を聞く機会が少ないという意見や、発表会は学生も気軽に発表できる場であると思われていないという意見が出たため、学生に発表者を限定し、異なる分野も同一セッションで発表を行い、聴講者による投票で優秀発表賞を授与する取り組みを開始した。2019 年度も実施予定である。

【課題】

「学生フリーテーマ発表会」が学生にとって学会発表の動機づけになっているか、発表会の場が異なる所属や専門の学生同士の交流の場となっているかの検証および改善策の立案。

糖鎖インフォマティクス若手の会

<http://rings.t.soka.ac.jp/wakate/index.html> ; glycoinformatics@gmail.com

【構成人数】19 名（2018 年度）

【代表者】細田正恵・創価大学理工学部・助教

【学術分野】「生命科学」

【関連のある学協会名】

糖鎖科学若手の会、日本糖質学会、JCGG

【設立の経緯】

2011 年に糖鎖インフォマティクス若手の会が発足した。糖鎖インフォマティクスを研究している研究者をまとめようとして、設立された。

【ミッション】

本会は糖鎖研究を促進するために必要な、バイオインフォマティクスの技術的な支援、協力を行うことを目的とする。

【活動内容】

ハッカソンの開催（2019 年 2 月）

糖鎖ソフトリポジトリの情報提供・維持する GLIC (Glycoinformatics Consortium) と糖鎖関連情報を網羅的に提供する GlyCosmos と共催した。ハッカソンでは、糖鎖インフォマティクスの短期間に集中してプログラミングし、ソフトウェア関連の開発を行った。また、技術情報の交流・交換を行いながらプログラミング技術を高めた。そして、GlyCosmos 関係者、産総研の糖鎖研究者などを含め、学生と研究者が協力して様々な糖鎖プロジェクトの発展に貢献した。

【課題】

- 若手の糖鎖インフォマティクスの多くを輩出すること
- GLIC と連携して情報共有や交流をしていくこと
- ユーザーとなる生物学者との交流の機会が乏しいこと

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

特になし

日本衛生学会若手研究者の会

http://www.nihon-eisei.org/organization/young_researchers_society/; jsh-yra@nacos.com

【構成メンバー、人数】現在（2018 年度）登録メンバーは 94 名。若手研究者の世話人が企画をコーディネートしている。世話人は 13 名である。

【代表者】鈴木武博・国立環境研究所・主任研究員

【学術分野】「その他」

【関連のある学協会名】日本衛生学会

【設立の経緯】2009 年に第 79 回日本衛生学会学術総会で、若手の有志により、自由集会を行ったことに始まりました。2015 年 3 月にこれまでの「若手有志の会」から学会公式の「若手研究者の会」になりました。

【ミッション】

若手研究者の交流促進とともに自由闊達な発言を促すことを目的としている。

【活動内容】

若手研究者の活性化を目的として、年次学術集会で自由集会、ポスターセッション、シンポジウムを行ってきている。学術講演以外にも、若手研究者のキャリアパスを考える講演、社会医学におけるグローバル化を考える講演、事例紹介、意見交流も実施している。またそれ以外の時期でも「夏の集い」などの交流会を開催している。今年度は、新しい試みとして、日本公衆衛生学会と連携し、日本医学会連合加盟学会連携フォーラムを開催した。

【課題】

2015 年 3 月に学会の正式な若手の会として位置づけられ、またそれにより、多くの若手研究者の参加を促しているが、学生の参加が比較的少ない。

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

なし

日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会

<http://youth.jeaweb.jp/index.html>; japan.yen.info@gmail.com

【構成メンバー、人数】日本疫学会会員の自称若手疫学者、310 名（2018 年度）

運営メンバー（世話人）、15～20 名

【代表者】尾瀬功・愛知県がんセンター研究所遺伝子医療研究部・主任研究員

川合紗世・愛知医科大学・公衆衛生学講座・助教

桑原恵介・帝京大学大学院公衆衛生学研究科・講師

【学術分野】「人文・社会科学」、「生命科学」、および「理学・工学」

【関連のある学協会名】日本疫学会

【設立の経緯】

若手疫学者が学会本体（日本疫学会）のニュースレター上で呼びかけたことがきっかけで、若手疫学者が集い、意見を交換し、将来を語り、そしてたまに酒を飲むことを目的に 1995 年に設立。

【ミッション】

会員相互の交流や国際疫学会若手の会など海外の若手研究者との交流を図ることで、共同研究のきっかけを提供し、疫学研究の進歩発展と若手研究者のキャリアアップを目指す。

【活動内容】

1. 会合「疫学の未来を語る若手の集い」の開催。
2. 合宿「疫学若手の会合宿（一泊二日）」の開催。
3. メーリングリスト「疫学の未来を語る若手の会メーリングリスト」を用いた意見交換。
4. その他（例：サマーセミナー等の日本疫学会の活動のサポート、他の団体との合同イベント）。

【課題】

本会の会員数は緩やかに増えているが、国内外の若手との間の交流の機会は限られている。そのため、お互いのことを知り、切磋琢磨できる仕組みづくりが求められている。会員自らが主体的に他の会員に対してアクションを起こしやすい環境を作るために、具体的には会員間でお互いの専門分野や研究内容について知る機会の提供、会員全員が参加する双方向的なやりとりが気軽にできる場面やツールの提供、地域ごとの交流の場（研究発表会、勉強会など）の提供などが求められると考えられる。こうした取り組みが徐々に実現されることで、将来的に共同研究をしたいと思える仲間づくりにもつながることが期待される。

人々のいのちと健康に直結する疫学を担う若手が、長期的な展望を見据えながら、世界的な広い視点に立って、人々のために国際社会を牽引できる疫学者として成長するためには、若いうちからの海外の疫学者とのネットワークづくりも重要であると考えられる (Kikuchi et al., J Epidemiol, 2019)。しかしながら、これまで国際間で気軽に交流できる場はなかった。世界の中でもアクティブに活動している疫学若手の会は存在するため (Kuwahara et al., Int J Epidemiol, in press)、海外の若手の会等とのコラボを通じて海外の優れた研究者と気軽に交流できる機会も今後、設けていくことが望ましい。

これらとは別に、若手を取り巻く研究環境や雇用環境が万全ではないため、学会のイベント等に参加しづらいといった問題がある。こうした問題の解消に向けた取り組みも徐々に進める必要があると考えられる。

最後に、本会の運営は若手疫学者が本務と私生活の合間を縫ってボランティアで担っているため、運営の負担を無尽蔵に増やすことはできない。本会のさらなる活性化と持続可能な運営体制の構築の双方を視野に入れながら、運営に関わることにメリットがあると思ってもらえるような仕組みをつくりつつ、運営体制の見直しと改革をたえず図っていく必要がある。

日本家禽学会若手幹事会

世話人：喜久里基 kikusato.m@tohoku.ac.jp

【構成メンバー、人数】12名（2018年度）

【代表者】喜久里基・東北大学大学院農学研究科・准教授

水島秀成・北海道大学大学院理学院理学研究院・助教

【学術分野】生命科学（動物生産科学、動物生命科学）

【関連のある学協会名】日本家禽学会、世界家禽学会、日本畜産学会

【設立の経緯】

前身の若手技術者交流会を2002年に立ち上げ、現在の若手幹事会は2012年に設立。日本家禽学会の産官学の若手会員の交流促進、情報交換を目的として活動を行っている。数年に一度メンバーを刷新し、現体制（2018年4月～）となっている。

【ミッション】

日本家禽学会のさらなる発展を目指し、新会員の入会の促進や若手・学生会員との交流を通じて、家禽科学に積極的に行う若手研究者の育成を行う。

【活動内容】

ランチョンセミナー、若手シンポジウム等の開催に加え、2019年3月の大会では高校生ポスター発表のサポートを行った。

【課題】

若手幹事の更新の停滞（若手会員数の伸び悩み）

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

なし

日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

<http://psychonomic.jp/young/>, yamadayuk@gmail.com (山田)

【構成メンバー、人数】年度開始時に 42 歳以下の日本基礎心理学会会員有志 11 名。(2018 年度)
有賀敦紀 (広島大)、市川寛子 (東京理科大)、牛谷智一 (千葉大)、小川洋和 (関西学院大)、三枝
千尋 (花王)、白井述 (新潟大)、田谷修一郎 (慶應義塾大)、丹野貴行 (明星大)、日高聡太
(立教大)、山田祐樹 (九州大)、四本裕子 (東京大)

【代表者】山田祐樹・九州大学基幹教育院・准教授

【学術分野】人文・社会科学

【関連のある学協会名】日本基礎心理学会

【設立の経緯】

日本基礎心理学会に所属する若手研究者の研究・教育活動や交流の支援を目的に 2013 年 12 月に設立された。

【ミッション】

若手研究者間のネットワークを構築し、日本基礎心理学会内外との情報交換を行い、若手会員の研究水準を向上させることを目指す。

【活動内容】

日本基礎心理学会年次大会内で研究発表会を開催し、最優秀発表者を The Young Psychonomic Scientist of the Year として表彰している。2018 年度は『日本基礎心理学会第 37 回大会若手オーラルセッション』として、2018 年 11 月 30 日に専修大学にて開催された。これは募集段階から若手研究者のみを対象として口頭発表を行う点で本大会にない要素を持ち、かつ発表の内容を国際査読誌等に発表済みの内容およびその後の展開に限定するという独自性を併せ持つ本若手会特有のイベントである。

【課題】

以下の点を課題として挙げる。

- 若手による基礎心理学分野の研究の活性化
- 若手研究者の研究環境ならびにキャリアパスの改善に向けた調査とサービスの提案
- 若手研究者間のコミュニケーションの促進

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

2018 年 6 月 4 日の第 3 回若手科学者サミットにおける口頭発表・ポスター発表によって他分野の若手研究者ならびに若手会と交流し、情報交換することができた。

日本教育経営学会 若手研究者のためのラウンドテーブル

【構成メンバー、人数】教育経営学に関連した若手研究者及び大学院生 (推定参加者約 30 名)
(2018 年度)

【代表者】末松裕基 東京学芸大学 准教授

【学術分野】「人文・社会科学」

【関連のある学協会名】日本教育経営学会

【設立の経緯】

それ以前にも不定期に開催してきたが、2016 年度より、事務局に担当者（運営の推進及び連絡調整）並びに 3 年間の世話人を置いて設立。

【ミッション】

若手研究者の研究環境や教育経営学の今後のあり方を考える

若手研究者同士の交流と問題意識の共有

【活動内容】

・教育経営学における「新しいテーマのあり方」について議論し、また、若手の議論・交流の良い機会として、学会の将来を見据えつつも、気軽に真面目に、今後のラウンドテーブルのあり方も含めて、急がずに企画・運営を行っている。

【課題】

企画運営のあり方、新たな研究課題及び研究方法の検討、学会の研究知の世代間継承

日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会

URL:<http://johrn.net/johrn>

E-mail: saneiwakatezimukyoku@gmail.com

【構成メンバー、人数】日本産業衛生学会会員歴 20 年以下の会員
世話人 13 名 総数 200 名（2018 年度、ML 登録者数）

【代表者】津野香奈美（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科・講師）
内田満夫（群馬大学医学部公衆衛生学・准教授）

【学術分野】生命科学

【関連のある学協会名】日本産業衛生学会

【設立の経緯】

本会は、日本産業衛生学会生涯学習委員会の下部組織として、野村恭子先生（現秋田大学医学部公衆衛生学・教授）と和田耕治先生（現国際医療福祉大学医学部・医学研究科公衆衛生学専攻・教授）を共同代表世話人として 2013 年に設立された。

【ミッション】

産業保健に関する研究活動について情報交換したり、学びを深めたり、同じ志を持つ仲間を見つけることを目的とする。

【活動内容】

- ・若手研究者の会メーリングリスト（ML）：メンバー間の情報交換・共有の場。
- ・自由集会・シンポジウム：若手の実践家・研究者にとって役立つ知識の提供や親学会に対する情報発信をする場。2018 年度は第 91 回日本産業衛生学会において自由集会「テーマ：職場でアンケートをする前に知っておきたいこと」を開催した。
- ・若手論文賞：若手で頑張って研究している実践家・研究者を応援・表彰する場。2018 年度は 3 本の論文を選考した。
- ・産業保健研究ネットワーク（JOHRN）：論文の執筆を不安に思っている若手の実践家をサポートする場。
- ・代表世話人が編集を担当して、本会のメンバーが協力して執筆し、「産業保健の複雑データを集めて まとめて 伝える ワザ 社員も経営層も動かす！「最強」の活用術」（メディカ出版）を出版した。また、同本を基に、メンバーに対して研修会を実施した。

【課題】

産業保健の研究は広い学際的な分野にわたるため、それぞれの専門家の交流を通じて研究内容を発展させること。

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

特になし

日本産業技術教育学会 若手の会

(会員サイト) <https://www.facebook.com/groups/475646172483631/>

連絡先 andy@staff.miyakyo-u.ac.jp

【構成メンバー、人数】 95 名（2018 年度）

【代表者】 安藤明伸・宮城教育大学 技術教育講座・教授

【学術分野】 工学，農学，教育学

【関連のある学協会名】 日本産業技術教育学会

【設立の経緯】

2013 年に設立され，若手研究者と教育現場との交流，研究の活性化を図るために設立された。

初代代表は東京学芸大学 大谷忠教授（設立時は准教授）

【ミッション】

職種や地域，専門領域に拘らず，懇親を深めながら，技術教育に関する情報交換，横断的な連携研究が行える活動を目指す。

【活動内容】

- Facebook 上の会員用サイトにて，2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日までに 120 件の情報・話題提供があった。
- 勉強会
日時 2018 年 8 月 24 日（金） 16:45～18:00
場所 長野市生涯学習センター第 5 学習室
参加者 35 名
テーマ 「新しい学習指導要領で年間指導計画をどのように立てると良いのか」
内容
 - ・ 指導計画の基本的な考え方
 - ・ 指導計画に関する疑問解消
 - ・ 年間指導計画の試作
- 情報交換会
日時 2018 年 8 月 24 日（金） 18:30～20:30
場所 ビュッフェ 居酒屋 パール
テーマ：情報交換
- ミニ勉強会

日時 2018 年 12 月 16 日（日） 10:00～16:00

場所 板橋区立上板橋第三中学校

参加者 30 名

内容

第一部 理論研修・実践発表（10:00～12:00）

- ① 『中学校技術科における情報教育の今後と可能性』宮城教育大学附属中学校 浅水 智也 氏
- ② 『現場の悩みから始める学習評価の実践研究』厚木市立荻野中学校 尾崎 誠 氏
- ③ 『Critical thinking の獲得を目指した栽培実習の実践報告』月形町立月形中学校 紺谷 正 樹 氏

第二部 実技研修会（12:40～15:40）

- ① 『TECH 未来を使用した新しい授業作りの提案』特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 専門研究員 渡津 光司 氏
- ② 『誰でもできる、新学習指導要領に対応した生物育成の題材の提案』上板橋第三中学校 佐藤 正直 氏

【課題】

- 新規会員の獲得
- 勉強会などへの参加者数増加
- 会員の外部資金獲得へ向けてのコラボレーションの活発化

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

学校教育における教科教育や関連する教科専門分野における他学会の会員との情報交換や広域的な科学技術に関わる教育問題に連携して取り組むことを期待しているが、若手科学者ネットワークを通してうまれた活動は現在のところなし。

日本蚕糸学会 若手の会

【構成メンバー、人数】日本蚕糸学会に所属する 45 歳以下の若手研究者、大学院生および学部生、
160 名（2018 年度）

【代表者】金児雄・弘前大学農学生命科学部・准教授

【学術分野】「生命科学」「理学・工学」「その他」

【関連のある学協会名】日本蚕糸学会

【ミッション】

日本蚕糸学会を活動の場とする若手研究者が相互理解と連携を深め、個々の研究を発展させ得る多様な情報を共有し、また、これを学会の持続的発展に資すること、さらに「日本学会会議若手アカデミー委員会」が主催する「若手研究者ネットワーク」の活動と連携することを目的とする。

【活動内容】

2018 年度は、日本蚕糸学会と共同で公開シンポジウム「次世代を担う若手研究者が語る昆虫科学の最前線」を主催した。本会内外から若手研究者 4 名を招聘し、講演して頂いた。また、若手の学会員を中心として執筆を依頼し、「カイコの実験単」NTS 社を刊行した。

【課題】

当該学問分野に興味をもつ若手研究者を増やすとともに、会員の研究の進展、研究意欲の向上に資する活動を行っていく。これにより、当該学問分野の活性化を目指す。

日本助産学会 若手研究者活躍推進委員会

<http://www.jyosan.jp/> (委員会ページ制作中)

【構成メンバー、人数】日本助産学会に属する若手研究者、教育者、実践家、42 名（2018 年度）

【代表者】新福洋子・京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 家族看護学講座・准教授

【学術分野】「生命科学」

【関連のある学協会名】日本助産学会

【設立の経緯】

2017 年日本助産学会の推薦を得て、若手研究者が日本学術会議若手アカデミーのメンバーに選出された。それまで日本助産学会には若手の会が存在せず、理事会に運営委員の推薦を依頼し、承認を得て理事長担当プロジェクトとして若手研究者ネットワークが設立された。

2018 年度日本助産学会総会にて若手研究者活躍推進委員会に変更となった。

【ミッション】

1. 助産学分野における若手で研究に関心のある者の間での交流を促進し、日本助産学会を母体として、研究、教育、実践の発展へ貢献することを目指す。
2. 助産学分野の学術的、社会的課題に対し、若手研究者として他分野の若手研究者と連携しながら提言を行い、助産学、周産期医療及び関連分野の社会的責任を果たす。

【活動内容】

1. 日本学術会議若手アカデミーメンバーとして、他分野の若手研究者と交流し、その活動に参加・協力する。
2. 学術集会での定例的な企画（「日本助産学会若手研究者の会」）等を行い、若手研究者同士の交流、活動の促進に努める。
3. メーリングリストを介して、日本学術会議やその他学会セミナー、交流活動の情報を周知する。
4. 国際助産師連盟(ICM)や国際的な助産若手研究者との交流の機会を持ち、若手研究者の参加を促進する。
5. その他、日本助産学会理事会から依頼があった活動。

【課題】

委員会として立ち上がったばかりであるため、年 2 回のイベント開催を目標に今後活動内容を検討し、実施していく。学会からの期待も大きく、若手研究者同士の交流や後輩の育成、若手研究者の研究能力を向上するための効果的な活動を議論する。

日本睡眠学会 若手の会

Facebook: www.facebook.com/groups/113228462164883/

HP: <https://sites.google.com/site/sleepschool2018/>

連絡先 suimin.wakate@nemuri.mobi

【構成メンバー、人数】

- ・若手(自称)研究者 世話人: 16 名
- ・Facebook(非公開グループ) 登録者: 110 名

【代表者】 角谷 寛, 滋賀医科大学医学部 睡眠行動医学講座, 特任教授

【学術分野】

「人文・社会科学」「生命科学」「理学・工学」
「複合(科学教育・教育工学、社会・安全システム、人間医工学、生体分子科学、脳科学)」

【関連のある学協会名】 一般社団法人 日本睡眠学会

【設立の経緯】 2013 年設立

【ミッション】

若手の睡眠研究者だけでなく、学生や異分野の研究者に対しても睡眠研究の意義や面白さを発信し、仲間を増やしつつ交流を深める。これにより、共同研究を促進するなどこれからの睡眠研究の発展に貢献する。

【活動内容】

- ・合宿型ワークショップ「冬の学校」の開催

招待講演、グループディスカッション、プレゼンテーション、情報交換など。過去 7 回開催。

- ・日本睡眠学会定期学術集会における「Data Blitz」の開催

飲み物・食べ物を片手に各演題発表者が1分間限りの持ち時間で次々と発表内容を紹介するソーシャルイベント。過去 5 回開催。

- ・日本睡眠学会定期学術集会におけるシンポジウムの開催

過去 1 回開催。

- ・他若手の会との交流

生物リズム若手研究者の集いと合宿型ワークショップを共同開催。過去 1 回開催。

<https://sites.google.com/site/sleepchronobio2018/>

- ・共同研究の実施

若手の会の複数のメンバーを基とした研究班が組織され、科研費基盤 A に採択された。

【課題】

- ・如何に会員を増やすか。
- ・外部への発信を如何にするか。
- ・キャリア・デベロップメントにどう役立てるか
- ・共同研究の開始・継続をどう支援するか。
- ・会員相互の情報交換を如何に円滑で有意義なものにしていくか。
- ・運営の負担を如何に分担し、次の担当者に引き継いでいくか。

日本体育学会 若手の会

taiikugakkaiwakate@gmail.com

【構成メンバー、人数】代表世話人 1 名、世話人 14 名、メーリングリスト登録者 394 名（2018 年度末現在）

【代表者】代表世話人 鈴木 宏哉・順天堂大学スポーツ健康科学部・先任准教授

【学術分野】「その他（体育・スポーツ・健康科学）」

【関連のある学協会名】日本体育・スポーツ哲学会、スポーツ史学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ心理学会、日本運動生理学会、日本バイオメカニクス学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本発育発達学会、日本体育測定評価学会、日本コーチング学会、日本学校保健学会、日本体育科教育学会、日本スポーツ教育学会、日本スポーツ人類学会、日本アダプテッド体育・スポーツ学会、日本介護福祉・健康づくり学会、その他の協力団体は <https://taiiku-gakkai.or.jp/links> を参照。

【設立の経緯】

設立：2018 年 8 月 25 日

経緯

- 2016 年 7 月、日本体育学会に若手研究者特別委員会が設置される。
 - 設立趣旨：若手研究者の日本体育学会への入会を促進し、会員であることのメリットを享受することができるとともに、将来の体育学会を担う人材を育成する。
- 若手研究者特別委員会にて、若手研究者の交流促進の活動の一環として、「若手の会」設立の案が出される。
- 2018 年 6 月、日本体育学会に若手研究者委員会（常設委員会）が設置される。
- 2018 年 8 月 25 日、日本体育学会年次大会において「日本体育学会 若手の会」が発足（日本体育学会理事会、若手研究者委員会承認）。
 - 日本体育学会に所属する若手研究者の交流を、学会内に設置されている 15 の専門領域の枠を越えて促進することで、体育・スポーツ・健康科分野の研究を活発にしていくことを目的とする。

【ミッション】

- 若手研究者に必要な支援・改善方策の検討
- 若手研究者間の学際的交流を促進する

【活動内容】

- 年次大会における、若手研究者を中心としたシンポジウム、講演、研究発表会等の開催に関する意見交換
- インターネット等 ICT を用いた情報提供、意見交換
 - 若手の会でメーリングリストを作成。若手研究者のコラムリレー、各種研修案内などの情報を配信。
- その他本会の目的達成に必要な活動

日本体育学会若手の会会則

https://drive.google.com/file/d/1eqf_b5u2KyP37usYcdEEYwHb1jMSFxbV/view?usp=sharing

(2018 年度の活動)

- 日本体育学会若手研究者委員会の中で、若手の会の会則作成および活動内容に関する意見交換
- 若手の会メーリングリストの作成および若手研究者コラムリレーの配信開始
- 日本体育学会第 69 回大会における企画シンポジウムおよびランチョンセミナーの開催
 - 企画シンポジウム「若手研究者が体育学の学びとキャリアパスを考える：私が研究の道へ進んだ理由」
 - ランチョンセミナー「若手の会設立の経緯と今後の取組」

【課題】

- 若手研究者の交流促進のための、新たな活動の提案・実行
- 活用予算の確保
- 若手の会の入会促進

農村計画学会若手ネットワーク活動

furalpln.owner@gmail.com

【構成メンバー、人数】約 100 名（2018 年度）

【代表者】齋藤朱未・同志社女子大学・准教授

【学術分野】「その他」（人文・社会学，工学，農学等の学際分野）

【関連のある学協会名】農学系，工学系，人文社会学系において農山漁村地域問題を扱っている学協会

【設立の経緯】

農村計画学会に属する若手研究者を中心に、多分野の横断的な意見交換の場として
若手ネットワーク活動(若手ネット)は 2002 年にスタートした

【ミッション】

- ・専門が異なる研究者や地域とのつながりの構築
- ・学会活動に対するボトムアップ的活性化

【活動内容】

- ・年数回の座談会、懇親会
- ・ボトムアップ的活性化に向けた若手ネット会議の開催

【課題】

若手人材の減少

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

特になし

微生物生態若手の会

[http://www.microbial-ecology.jp/?page_id=5672;jsme.wakatekoryu\[at\]gmail.com](http://www.microbial-ecology.jp/?page_id=5672;jsme.wakatekoryu[at]gmail.com)

【構成メンバー、人数】日本微生物生態学会に所属する若手研究者・学生、50 人程度（2018 年度）

【代表者】五十嵐 健輔・産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門・研究員

【学術分野】「理学・工学」

【関連のある学協会名】日本微生物生態学会

【ミッション】

若手研究者・学生の研究交流や友好を深め、研究者のモチベーションを高めることで微生物生態学の発展に寄与することを目的としています。

【活動内容】

毎年の学会大会にあわせた、独自の研究発表会や講演会などの企画を実施しています。近年は、プレゼンテーション能力の向上を目指した発表練習会、年長の研究者や気鋭の若手による最先端の研究や研究生活についての講演、テーブルディスカッション、そして懇親会などを行っています。

【課題】

- ・若手会会員のほとんどが学生であり、本若手会に端を発する研究が生まれにくい。
- ・若手の会を企画運営する幹事が頻繁に交代するため、活動の方向性と規模が変動しやすい。

ビーム物理研究会・若手の会

<http://beam-physics.kek.jp/bpc/wakate/wakate/>; beam.youth.sec@gmail.com

【構成メンバー、人数】

ビーム物理学に関わる 45 歳未満の若手研究者・技術者、大学院生、学生らで構成
人数：86 名（2019 年 3 月 31 日時点）

【代表者】

氏名：原田寛之、所属：日本原子力研究開発機構 J-PARC センター、職位：副主任研究員

【学術分野】 「理学・工学」

【関連のある学協会名】

ビーム物理研究会、日本物理学会ビーム物理領域、日本加速器学会

【設立の経緯】

- 2016 年 10 月 日本学術会議 若手科学者ネットワークから登録依頼
- 2016 年 11 月 若手の会設立に関して有志数名で議論。ビーム物理研究会会長に相談
- 2017 年 03 月 日本物理学会第 72 回年次大会インフォーマルミーティングで「組織化提案」
- 2017 年 03 月 若手科学者ネットワークへ登録、実質的な活動開始
- 2017 年 08 月 日本加速器学会第 14 回年会インフォーマルミーティングで「組織化承認」
- 2018 年 01 月 ビーム物理研究会・若手の会メーリングリストを作成
- 2018 年 02 月 ビーム物理研究会・若手の会 会則を作成
- 2018 年 03 月 日本物理学会第 73 回年次大会インフォーマルミーティングで「設立承認」

【ミッション】

ビーム物理は、粒子加速器におけるビーム力学的物性研究を内に含み、ビーム・プラズマ相互作用、ビーム・レーザー相互作用、非中性プラズマ、光子ビーム、イオントラップなどの多様な分野を統合する概念である。様々なビームは、物理学のみならず医学、薬学、工学の学術的研究に加えて、エネルギー、産業利用等の幅広い分野の研究基盤として利用されている。ビーム物理学が支える科学技術の発展を目指し、次世代を担う若手研究者の交流を活性化させることが「ビーム物理研究会・若手の会」のミッションである。

【活動内容】

①「第 3 回若手科学者サミット」への参加とポスター発表

日時：2018 年 6 月 4 日

会場：日本学術会議 講堂

主催：日本学術会議 若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会

② 研究会「ビーム物理研究会・若手の会 2018」の開催

会期：2018 年 11 月 20 日～22 日（内、若手の会：21 日夕方～22 日）

会場：量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 重粒子治療推進棟 2 階 会議室
幕張セミナーハウス（若手の会）

主催：量子科学技術研究開発機構

共催：ビーム物理研究会、ビーム物理研究会・若手の会

後援：日本加速器学会

講演数：招待講演 2 件、一般口頭発表 11 件、若手口頭発表 11 件、若手ポスター発表 12 件

参加数：56 名（内、若手の会：44 名、学生：29 名）

備考：若手研究者や学生の研究意欲を高め、研究者・社会人としての自立と発展を支援することを目的とし「若手発表賞」を設け、4 名の受賞者。

③「ビーム物理研究会・若手の会」の活動報告 1

日時：2018 年 8 月 10 日

会場：ハイブ長岡

会議名：日本加速器学会第 15 回年会インフォーマルミーティング

④「ビーム物理研究会・若手の会」の活動報告 2

日時：2019 年 3 月 15 日

会場：九州大学 伊都キャンパス

会議名：日本物理学会第 74 回年次大会インフォーマルミーティング

⑤日本加速器学会誌「加速器」へ「ビーム物理研究会・若手の会」を寄稿・掲載

掲載誌：日本加速器学会誌「加速器」

巻・号・ページ：15 巻 3 号 2018 (143 – 150)

発行日：2018 年 10 月 31 日

【課題】

①「ビーム物理研究会・若手の会」設立後の運営

②「ビーム物理研究会・若手の会」組織の強化

③ 優秀な若手科学者の研究環境

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

①「ビーム物理研究会・若手の会」の設立

② 日本学術会議 若手アカデミーとの交流や意見交換

③ 若手科学者サミットへの参加による他分野の若手科学者との交流や意見交換

④ 所轄省庁の関係者との交流や意見交換

Japan-YWP

HP: <http://www.japan-ywp.site/> 連絡先: [japanywp\[at\]gmail.com](mailto:japanywp[at]gmail.com)

【構成メンバー、人数】教育機関、民間、官庁・事業体、449 名（2018 年度）

【代表者】浅田安廣、国立保健医療科学院、主任研究官

【学術分野】「複合（工学、人文、法学、情報など）」

【関連のある学協会名】日本水環境学会、日本水道協会、日本下水道協会

【設立の経緯】

IWA 国内委員会において、2010 年 9 月までに Young Water Professional (YWP) Chapter を設立し、若手研究者の活動を積極的に展開することが決定された。そして、2010 年 3 月 5 日に Japan-YWP が設立され、今まで個別に実施されていた YPW の活動内容を統合し、Japan National YWP として対応することとなった。

【ミッション】

教育・研究機関、官公庁・自治体、民間企業に所属する水関連の若手が広く集まることで、分野・職種間の交流を促進し、水問題に関する様々な情報交換を行うプラットフォームを構築すること

【活動内容】

ワークショップ、イブニングセミナー、勉強会、総会など様々なイベントを実施している。例えばイブニングセミナーでは、仕事帰りに気軽に立ち寄れる勉強会というコンセプトのもと、年に数回実施している。ワークショップ・勉強会では固定のテーマ(例：水と SDGs)を設定し、その内容について講演、テーブルディスカッションを行っており、一つのテーマに対して様々な視点で物事を深く見つめる機会を作っている。総会では、講演会(水環境や上下水道に関する技術的な話題、政策、経営、教育広報に関わる話題や市民団体の活動紹介など)や会員間のネットワーキングの機会を設けている。

【課題】

この活動を進めていく上では人脈作り、資金確保が重要である。人脈作りには、多くの方に知っていただけるよう、様々なイベントに積極的に参加・お手伝いをして、Japan-YWP の存在を知ってもらえるように努力している。国際ワークショップの資金獲得などについても、助成金への応募などの努力を積極的に行っている。

【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】

特になし

おわりに

2018 年度も若手科学者ネットワークの活動にご協力いただき、ありがとうございました。今回のアニュアルレポートは 7 回目の発行になります。ご執筆にご協力いただきました皆さまに感謝いたします。アニュアルレポートをより見やすくするために、昨年度よりテンプレートを用いての原稿作成をお願いしております。【学術分野】という項目を追加して分野を整理するとともに、これから若手研究者の会を立ち上げる団体の参考になりますように【設立の経緯】という項目も追加いたしました。また、ぜひこの若手科学者ネットワークを活かしていただきたいという思いから、【若手科学者ネットワークを通じてうまれた活動】という項目も追加いたしました。各団体の活動の参考にしていただけましたら幸いです。

この分科会は、国内の若手科学者のネットワークを形成・維持すること、若手科学者の優れた活動や抱える問題点を共有できる場を提供すること、そして若手アカデミーとしての提言につながるような意見収集を行うことを目指しております。これからも、若手科学者間のネットワークの構築・充実に向けて活動していく所存です。今後とも、本分科会の活動をご理解いただき、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

2018 年 6 月

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
幹事 井頭 麻子